

「電友の会だより」 (空っ風通信)

「上毛電鉄友の会」の会報誌

第13号

上電が設立されたのは大正15年(1926年)の5月27日。

84年目を迎えた2010年の設立記念日に、地域の足である上毛電鉄の末永い運行を目指して「上毛電鉄友の会」は発足いたしました。

上電は、いよいよ設立90周年を迎えました。上電友の会も100周年に向け、コツコツと上電とともに走り続けます。

挨拶 友の会会報第13号発刊にあたって

昨年、群馬県交通政策課が、「群馬県交通まちづくり戦略」と題した報告書を作成した。色刷りのA4サイズ150頁を超える報告書であり、多角的で綿密な調査を行った成果が、有益な多数の図表に盛り込んで解説されている。その中で私は、群馬県の特異な車社会を象徴すると思われる次の3つの事項に注目した。

1. 移動距離別交通手段:100m未満の移動(すぐそのコンビニへの買い物等が該当)に際しても、27%ものトリップが自家用車を利用。
2. 目的別主要交通手段:自家用車利用が、私事・仕事・通勤で80%を超え(鉄道は10%未満)、通学でも20%近くいる(鉄道は40%程度で、本来主流だったバスは10%未満)。
3. 高齢者の移動:大半が自家用車を保有し、その保有者の外出率は77%だが、非保有者の外出率は極端に低い(45%)

こうした車社会に対して、公共交通利用促進対策として、群馬県は、駅前駐車場の整備やバスのオープンデータ化(時刻やルートが容易に検索)等を掲げている。色々の施策を講じる事は大切だが、経済成長や社会環境の中で築かれた群馬特有の異常な車社会の中で、トリップの一部を公共交通に移行させることや、高齢者等、車を使えない人の足を確保するためには、全県民の鉄道やバス自体の認識の高揚と乗り継ぎの利便向上が基本だが、群馬ではその地盤が弱いと考える。上毛電鉄は、ほぼ終日毎時中央前橋15・45分、西桐生を16・46分、すなわち30分毎に発車する便利なダイヤである。同様のダイヤで走る電車やバスが増えることが望まれるが、私たち上毛電鉄友の会会員は、それに及ばない地区・路線が多くても、県民の公共交通利用促進を進めていきたいものである。

(上毛電鉄友の会代表 大島登志彦)

歩 自転車に乗って春のハイキング

赤城南麓の古城と桐生の鉄道ゆかりの地をめぐる

2018年5月12日(土)恒例の友の会企画ハイキングを行いました。晴天に恵まれた今回は、サイクルトレインを使って自転車で沿線の戦国時代の古城と桐生にある幻の鉄道遺跡巡りがテーマです。

中央前橋駅に集合して、9:15の電車で新屋駅へ向かいました。ここには、武田・上杉・北条の三つ巴バトルとなった戦国時代の城である「女淵城址」があります。立派な堀がめぐらされた城は、豊臣秀吉の小田原攻めによる北条氏の滅亡により廃城になりました。線路に沿って走ること30分、膳駅近くの膳城址に着きます。ここには、前橋市の粕川民俗資料館もあり、城跡と共に見学ができます。この城は、武田勝頼により落城させられた城です。深い空堀が残り、鬱蒼とした木々に覆われて、まさに兵どもが夢のあとを感じました。

この後、一行は西桐生駅に向かい、重要伝統的建造物群保存地区で昼食をとり、のこぎり屋根工場や近江商人矢野久左衛門商店を見学、明治時代に両毛鉄道桐生駅の予定地となった場所や明治に存在した大規模工場のドコービル軌道跡をたどり、15:45に西桐生駅で解散しました。

(佐羽宏之)

掃除 心臓血管センター駅のクリーン作戦

2018年6月16日、9回目の上電駅クリーンボランティアを、心臓血管センター駅にて行いました。今回はなんと、15名の大人スタッフが集合！高崎経済大学の学生さんや地元住民の方にも参加していただいたおかげで、駐輪場のゴミの撤去等の作業はスムーズに進み、終了後はのんびりと歓談の時間を過ごすこともできました。

ここ数年は年1回の活動で推移しており、マンネリ化していないかという不安も頭をよぎりますが、この活動を通じて少しずつ上電を支える輪が広がっているという手ごたえを感じておりますので、今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

(楠山喬正)

飲 ビール電車で乾杯を叫び続ける

2018年7月28日、毎年恒例のデハ101上電ビール電車が開催されました。

今回も天候に恵まれ、ビールが飲みごろの気温の中(=暑い!!)、デハ101は元気に大胡駅を出発しました。

そしてこちらも恒例参加となりつつある…筆者もメンバーとして活動している鉄道テクノユニット「SUPER BELL」Z野月貴弘さんも中央前橋駅より乗車です。

毎年、上電の皆様、友の会の皆様、ビール電車に同乗させていただく皆様に温かく迎えていただき、1年1度の特別楽しみな行事となっております。

上電ビール電車は、沿線にお住まいの方、上電が好きな方、デハ101が好きな方、はたまた上電の社員の方、そして、お酒が大好きな方！様々な皆さんが一堂に会し、思い思いの食べ物飲み物を車内に持ち寄って(もちろん身一つでも可!)、デハ101の釣りかけモーター音と楽しいおしゃべりをBGMに、車窓からののどかな風景を眺めるもよし、お酒を思う存分飲みまぐるもよし、な、アットホームなイベント列車です。個人的なおススメは、開け放った窓から受ける風！これは、夏×デハ101ならではの醍醐味だと思います。

まだ未体験の方も、もう上級者の方も、次回開催時にはぜひご参加をお待ちしております。

90歳を迎えたデハ101と一緒に、今年もまた、思い出の1ページを飾れますように…。

(堂込聖美)

声 大切な原風景 ～9月イベント出演者から～

踏切の音、警笛、振動と共に響く線路の音、なびく草花、電車の匂い、ブレーキ音。家の中にも音と振動でそれと気づく電車の時間。私にとって目覚ましやアラーム代わりの上毛電鉄。上電は私の大切な原風景の一部分なのです。

そんな原風景から生まれた歌が『走れ、上毛電鉄』『丸山下から富士山下まで』。そして、桐生人目線で前橋買い物小旅行を題材に、昨年末に書きあげた『上電ブギ』。上電三部作が出揃いました。

『走れ、上毛電鉄』をやって4年ほど経ちます。歌い込むほどに歌も表情を変え育ってきました。そして何より私自身も成長させてもらっている気がします。

去年は秋の上電ファン感謝フェアに出演させていただきました。初めて入った大胡の車庫には大変感動しました。なにせあの黄色い電車があったのですから。その瞬間、子供の頃の景色や感覚が蘇ってきました。

出演に際し、お声がけくださった友の会はじめ関係者の皆様には大変感謝しています。大胡のステージで歌えて感無量、感動でした。

これからも多くの皆様に上電の歌を聴いてもらえたなら嬉しいです。また、何処ぞのステージで皆様にお会いできるのを楽しみにしています。ありがとうございました。

(東郷ケイジ)

旅 秋のバスハイキングは二本立て

11月10日(土)に実施された今年度の秋バスハイキングは「豪華二本立て！東武鉄道矢板線&東野鉄道廃線ウォークとSL大樹&岩下の新生姜ミュージアム」でした。

中央前橋駅前で閑越交通バスに乗り込んだ一行は、下今市駅を目指し、下今市駅→鬼怒川温泉駅は東武鉄道「SL大樹」に乗りしました。東武鉄道では約半世紀ぶりに復活した蒸気機関車ですが、やはり蒸気機関車と客車の組み合わせはいいですね。

その次に向かったのは、東武鉄道矢板線の廃線跡です。昭和34年に廃止となった鉄道ですが、まだ痕跡は残っており、緩いカーブなどは矢板線の現役時代を彷彿とさせてくれました。

その後、「道の駅やいた」での昼食になり、昼食後に向かったのは東野鉄道の廃線跡です。

昭和43年に廃止になった東野鉄道の廃線跡の一部は「ぼっぽ通り」という遊歩道に整備されており、特に乃木神社前駅や大高前駅の跡は、東野鉄道の現役時代を偲ばせるように整備されていました。

そして最後に立ち寄ったのは「岩下の新生姜ミュージアム」です。鉄道とは無関係の観光スポットですが、楽しめました。

その後は一路前橋へ。何と！ほぼ定刻に中央前橋駅前に戻りました。参加された皆様、お疲れさまでした！

(山本典臣)

発刊 上毛電鉄 友の会 2019. 3
WEB <http://www.jomorailway.com/supporters/>
Facebook <https://ja-jp.facebook.com/jyodentomonokai>
E-mail supporters@jomorailway.com

印 友の会スタンプラリー 2018

2018年の年末から上毛電気鉄道、アルピコ交通、北陸鉄道の3社でスタンプラリーを実施しております。この3社で実施するのは2年目になります。今年は各社スタンプを2つにし、新春イベント1つの合計7スタンプになりました。

コンプリートについても昨年より少し変化球をつけました。ちょっと難易度が上がってしまいましたらごめんなさい……。コンプリートできなくても自分のペースで押し進んでいただければと思います。あと昨年と異なる点は車両にスタンプラリーのヘッドマークを付けさせていただけいております。3社とも若干デザインが違いますので写真を撮られた方は確認してみてください。(平岡隆一)

催 新春イベントは大盛り上がり

今年も1月3日は新春イベント。友の会では、プラレールコーナーのほか、トークを実施。第一部では、土木学会 選奨土木遺産認定を記念して、花上元館長ほか代表・副代表で、「上毛電気鉄道の歴史・土木遺産施設」をテーマに語り合い、第二部は実行部隊の役員が席を並べて年間の活動を振り返りました。

午後からは、SUPER BELL'Zと南田マネージャーが登場して、1500名の来場者が熱狂！スタンプラリーのベルズ賞も決定。友の会オリジナルグッズも完売と、年明け早々賑やかな一日でした。(新保正夫)

研 交通シンポジウムで活動発表

第9回 人と環境にやさしい交通をめざす全国大会 in 前橋
「健康で安全安心な群馬のまちづくりへ！」

平成31年3月9～10日に前橋テルサ・群馬会館を会場に開催されました。大会予稿(友の会関係)は、裏面を参照ください。

午前中の研究大会では、新保副代表・佐原会員と「けやきウォーク前橋と交通系市民団体との連携活動について」と「上毛電鉄友の会の活動経過と上電の未来」の口頭発表を行いました。また、市立前橋高校・前橋工科大学の学生の発表もありました。

午後の市民フォーラムには、佐羽副代表が地域公共交通マイスターの立場から、第3部パネルディスカッションに登壇しました。また、前橋高校鉄道研究部OBの桐生球場前駅のジオラマ展示を行いました。

翌日は、上毛電鉄デハ101に乗り、大胡車庫の見学や桐生の街歩きをしたり、低速電動コミュニティピークル eCOM-8の試乗をしたりしました。(塩島翔)

編集後記

心臓血管センター駅のクリーンボランティアに私も参加しました。地道な活動ではありますが、少しでも上電の役に立てたかな、との実感は大いに得られました。もうすぐ4月。地域の足でありシンボルである上電を支えるという活動の趣旨にご賛同いただき、新年度も、会員継続をいただきますようお願いいたします。(太田聡彦)